

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3148745号
(U3148745)

(45) 発行日 平成21年2月26日 (2009. 2. 26)

(24) 登録日 平成21年2月4日 (2009. 2. 4)

(51) Int.Cl.

F 1

B 4 2 D 15/02 (2006. 01)

B 4 2 D 5/00 (2006. 01)

B 4 2 D 15/02 5 0 1 F

B 4 2 D 5/00

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)	
(21) 出願番号 (22) 出願日	実願2008-8731 (U2008-8731) 平成20年12月12日 (2008. 12. 12)
(73) 実用新案権者 (74) 代理人 (72) 考案者	507331852 株式会社ノグチインプレス 東京都墨田区両国一丁目14番4号 100134533 弁理士 伊藤 夏香 野口 孝敏 東京都墨田区両国一丁目14番4号株式会 社ノグチインプレス内

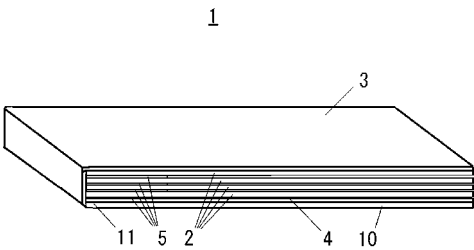
(54) 【考案の名称】 一筆箋

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】一筆箋紙片に短い文章を書いて贈り物や書類などに添えて使う際に、粘着テープやクリップなど利用しなくても、抜け落ちや風などで飛ばされることによる紛失や見落としを防止でき、利便性に優れた一筆箋を提供する。

【解決手段】表紙 3、複数枚の一筆箋紙片 2、下敷きとなる裏表紙 10 の順で積層された一筆箋 1 であって、一筆箋紙片 2 と裏表紙 10 との間に剥離紙 4 を有し、一筆箋紙片 2 は、繰り返し剥離及び接着が可能な粘着層 5 が裏面の端部に設けてある構成とする。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

表紙、複数枚の一筆箋紙片、下敷きとなる裏表紙の順で積層された一筆箋であって、前記一筆箋紙片と前記裏表紙との間に剥離紙を有し、前記一筆箋紙片は、繰り返し剥離及び接着が可能な粘着層が裏面の端部に設けてあることを特徴とする一筆箋。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、短い手紙などを書くのに適する一筆箋に関する。

【背景技術】

10

【0002】

一筆箋は、従来より、贈り物に添える短い手紙や書類などに添えるやや長めのメモなどの利用目的で多用されている（例えば、特許文献 1 参照）。

【特許文献 1】特開 2007 - 190898 号公報（0003 段落）

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

しかし、従来の一筆箋では、その一筆箋を添えた贈り物や書類から風などで飛ばされたり、その一筆箋を添えた書類等を入れた封筒の底などに残ってしまったりして、相手に届くまでに紛失したり、届いても見落とししたりしやすいという問題があった。

20

【0004】

そのため、従来の一筆箋では、紛失や見落としを回避するために粘着テープやクリップなどで留める必要があったが、毎回それらの道具を利用して留めるという作業が煩わしいという問題があった。

【0005】

したがって、本考案の目的は、贈り物や書類などに添えて使う際に、紛失や見落としを防止でき、利便性に優れる一筆箋を提供することにある。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

上記目的を達成するため、本考案は、次のように構成したものである。

30

【0007】

本考案の第 1 の態様は、表紙、複数枚の一筆箋紙片、下敷きとなる裏表紙の順で積層された一筆箋であって、前記一筆箋紙片と前記裏表紙との間に剥離紙を有し、前記一筆箋紙片は、繰り返し剥離及び接着が可能な粘着層が裏面の端部に設けてあることを特徴とする一筆箋を提供するものである。

【考案の効果】**【0008】**

本考案の一筆箋は、上述したとおりであるので、粘着テープやクリップなど利用しなくても、贈り物や書類などに添えて使う際に、紛失や見落としを防止でき、利便性に優れる。

40

【考案を実施するための最良の形態】**【0009】**

以下に、添付した図面を参照しながら、本考案の好適な実施例の構成及び作用を詳細に説明する。

【実施例 1】**【0010】****（構成）**

図 1 は、本考案の実施例 1 に係る一筆箋の全体構成図である。また、図 2 は、本考案の実施例 1 に係る一筆箋の一筆箋紙片部分の構成図である。図 2（a）は表面側を上にした斜視図、（b）は裏面側を上にした斜視図である。本実施例において、罫線部 9 のある側

50

を一筆箋全体の上側すなわち表面側とし、裏表紙 10 のある側を一筆箋全体の下側すなわち裏面側として説明する。また、図 1 及び図 2 においては、厚み方向の長さは、説明のため一筆箋の縦横の長さに比べ拡大してある。

【0011】

本実施例の一筆箋 1 は、積層させた短冊状の複数枚の一筆箋紙片 2 を有するものである。図 1 において、一筆箋紙片 2 の枚数は、説明のため数枚としたが、20 枚程度で 1 冊とする場合が多い。

【0012】

一筆箋紙片 2 は、裏面の端部に繰り返し剥離及び接着が可能な粘着層 5 を有する。図 1、図 2 において、粘着層 5 の厚みは説明のために特に拡大してある。

10

【0013】

一筆箋紙片 2 は、表面側に、文章を数行書くための罫線部 9 を有する。一筆箋紙片 2 同士はそれぞれの裏面にある粘着層 5 によって互いに繰り返し剥離及び接着可能に積層させてある。積層させた一筆箋紙片 2 は、剥離紙 4 の上に重ね、これを裏表紙 10 の上に重ねてある。一筆箋 1 は、粘着層 5 がある側の辺の縁で、全ての一筆箋紙片 2 と剥離紙 4 と裏表紙 10 とを糊付けした天のり部 11 を有する。表紙 3 は、一番上の一筆箋紙片 2 の上に重ねてあり、裏表紙 10 と接着してある。表紙 3 と裏表紙 10 は一体となっていてよい。一筆箋紙片 2 の表面側は全体に筆記可能であり、裏面側は粘着層 5 以外の部分は筆記可能である。

【0014】

20

一筆箋紙片 2 は、上質紙、普通紙、和紙など、鉛筆やボールペン、筆など、筆記具で筆記可能な紙であれば、厚みを問わず用いることができる。

【0015】

裏表紙 10 は、板紙やプラスチック板が適し、例えば坪量 150 ~ 600 g / m² の厚紙やポリエチレンテレフタレート樹脂板、ポリプロピレン板などが適する。

【0016】

剥離紙 4 は、薄い普通紙などでもよいし、一筆箋紙片 2 と接する表面側に、剥がしやすいようにシリコン樹脂などでコーティングを施した紙でもよい。裏表紙 10 の材質が、一筆箋紙片 2 を貼っても剥がれ落ちやすかったり逆に長期で一筆箋紙片 2 を貼ることによって剥がし取りにくくなるような場合であっても、一筆箋紙片 2 を最後の 1 枚までスムーズに使えるようにできる。

30

【0017】

図 1 において、表紙 3 は、一筆箋紙片 2 の粘着層 5 がある側の辺で裏表紙 10 に貼り付けてあるが、これに限らず、長辺側で開閉自在にしても、短辺側で開閉自在にしてもよい。

【0018】

(使用方法)

使用する際は、一筆箋 1 の表紙 3 を開いて、一番上の一筆箋紙片 2 の罫線部 9 に文章を書く。一筆箋紙片 2 は、たとえばお礼状や送付状の代わりの役割を担う。文章を書いた後、一筆箋 1 から文章を書いた一筆箋紙片 2 を剥がし取る。粘着層 5 には容易に再剥離可能な接着剤が塗ってあり、したがって、容易に剥がし取ることができる。

40

【0019】

粘着層 5 には容易に再貼付可能な接着剤が塗ってあるので、一筆箋 1 から剥がし取った一筆箋紙片 2 は、添付する書類や贈り物に直接貼り付けることができる。したがって、封筒の中など一筆箋を添付した書類等から抜け落ちてしまっで見落とししたり、あるいは風に飛ばされるなどにより紛失したりする心配がない。また留めるのに、粘着テープやクリップを用いる必要がない。一筆箋紙片 2 は、書類や贈り物から手で容易にはがし取ることができるので、書類や贈り物にクリップ留めの跡がついたり、粘着テープの粘着部分が残ったり、書類等の表面を剥がしてしまうおそれがない。

【0020】

50

(効果)

本実施例によれば、一筆箋でありながら付箋のように気軽に利用でき、贈り物や書類などに添えて使う際に、紛失や見落としを防止でき、利便性に優れる。

【0021】

以上、本考案の好適な実施例について説明したが、本考案は、かかる実施形態に限定されず、その考案の趣旨を逸脱しない範囲で種々の変形実施が可能である。当業者であれば、実用新案登録請求の範囲に記載された技術的思想の範囲内において、各種の変更例又は修正例に想到しうることは明らかであり、それらについても当然に本考案の技術的範囲に属するものと了解される。

【図面の簡単な説明】

10

【0022】

【図1】本考案の実施例1に係る一筆箋の全体構成図である。

【図2】本考案の実施例1に係る一筆箋の一筆箋紙片部分の構成図である。

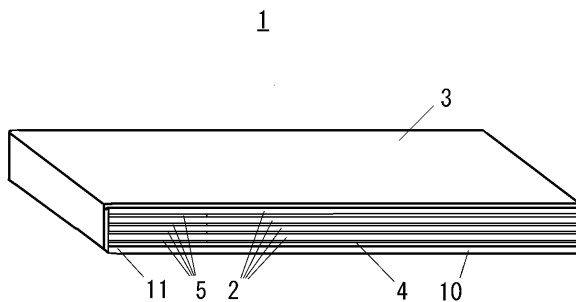
【符号の説明】

【0023】

- 1 一筆箋
- 2 一筆箋紙片
- 3 表紙
- 4 剥離紙
- 5 粘着層
- 9 罫線部
- 10 裏表紙
- 11 天のり部

20

【図1】



【図2】

